

「ニーズ・シーズマッチング地域交流会 (通称「ATAサテライト」)

ASD（自閉スペクトラム症）の人が 必要とする支援機器を考える — 報告 —

奈良県橿原市 令和5年9月6日（水）

ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会
増澤 高志 博士（工学）

はじめに

- 他の障害のある人が使用する支援機器、例えば、車いすは、それがなければ、日常の移動に大きく影響し、生活や社会参加に大きくかかわる。さらに、使用目的は理解しやすく、多くの場合、その使用は目的につながりやすい。
- しかし、ASDの方にとっての支援機器は、それらの支援機器とは大きな違いがある。
- その方の力が発揮できているかどうか、社会参加がしっかりとできているかどうかは別にして、支援機器がなければ生活ができないわけではなく、ASDの方をはじめとした発達障害、知的障害の方は、支援機器を使用せずに生活をしてきた歴史が長い。

- そのため、支援機器は、人によっては「異物」となることもあり、突然に渡されてもすぐには理解できずに使えないこともある。
- 支援機器の役割を果たし、生活の中に取り入れるためには、その人その人に合った『導入』その後の支援が必要なことが多い。
- また、障害そのものが認識された歴史も80年程度と浅く、その障害特性のとらえ方や診断基準等も当初より大きく変化してきている。そのことも含め、まだまだ、障害そのものに対しても理解が進んでいるとは言えない状況がある。
- と、言うこと等が前提としてある。

- 令和5年9月6日（水）
AM 9：30 ～ PM 4：00
- 奈良県橿原市 商工経済会館
小会議室第2
- ニーズ側9名（Zoom参加3名含む）
 - （前日、当日に家族やご本人がコロナ罹患されたり、病気により、欠席もしくはzoom参加となった）
- シーズ側から4名 計13名

また、厚生労働省より福祉工学専門官の中村様、主催のテクノエイド協会より、五島部長、宇田川氏に参加頂きました。



- 開会・挨拶の後、ニーズ側の出席者より、自己紹介及び、抱える課題等発言頂き、シーズ側の出席者より、会社の紹介やこれまで開発されてきた機器、お持ちのシーズの紹介を頂いた。
- ニーズ側の出席者の多くは、子どもさんがASDの障害を持つお母さんであり、その子どもさんは基本的に成人であり、20年以上、そのお子さんと向きあう中で、様々な支援機器も使用してこられ、その使用にあたって必要な周りの理解も構築してこられている等の経験をお持ちである。

- 驚いたのは、そのお母さんたちの多くから課題として挙がってきたのは、何らかの感覚過敏に関わってであった。



- 例えば、

- . . . 25歳の娘がASDで、感覚過敏がある。外から聞こえるバイクの音等でもパニックになり、イヤーマフを外して壁を殴る。

- . . . イヤーマフを常に使用しているが、夏場には耳回りの皮膚がかぶれてしまう。また、刺激遮断もイヤーマフだけでは不十分な時があり、ひどいときはイヤーマフの上から手で耳をふさぐこともある。視覚過敏もある。

-



(. 個人的な感想も含めて)

- ASDにかかわっては、その障害特性・診断基準として、「対人関係を調整することの難しさ」と「こだわりの強さ」などが挙げられるが、診断基準の中には、直接、感覚過敏の記載はない。
- そのことは、感覚過敏はASDの方だけに限ったことではなく、強い弱い、そのことが生活に大きく影響するかどうかはさておき、障害の有無に限らず多くの人が抱える課題ではないかと思われる。しかし、それらの多くの人は、自分なりの解決方法、折り合いのつけ方を工夫されているのではないか。
- そのことも含め、感覚過敏がある、ということだけではASDの診断基準とはならないと思われる。

- しかし、20年以上ASDを抱えるお子さんと向き合ってこられたお母さんたちが課題として感覚過敏を挙げられるのには、生活、人生に大きく影響する切実な状況が現在も続いているからではないのか。
- それぞれの状況は個別性が高いかもしれないが、それぞれの「自立」、「社会参加」のありように大きくかかわる。
- その意味では、感覚過敏に関わっては、「自立」、「社会参加」をするうえで、支えなければならない重要な「障害の部分」ではないのかと思われる。

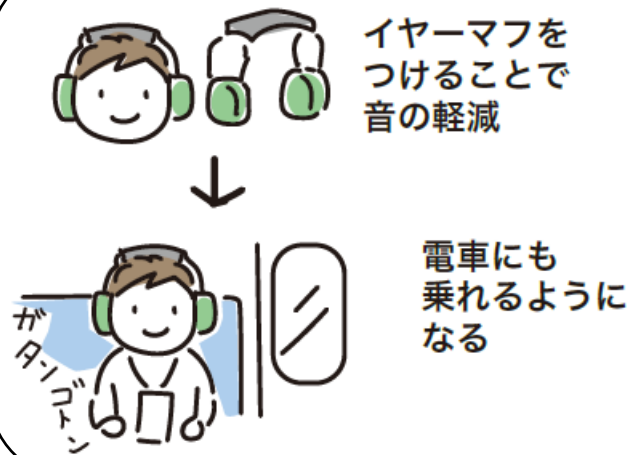
- 感覚過敏（感覚鈍麻も含め）は、現在のところ原因、治療方法は不明である。
- そのことも含め、人が直接かかわる支援のありようはもちろんであるが、支援機器も含めた、ものや道具、環境でできること、しなければならないことが様々にあるのではないかとと思われる。
- 感覚過敏に対しての対応は、個別性は高いが、そのことの解決事例の積み重ねは、ただ単に、ASDの方の課題の解決だけではなく、多くの方にかかわるのではないか。
- 感覚過敏に関わっての支援・対応は、人口の1%と言われるASDの方だけに限らず、一般の方も含めた市場が見込める可能性もあるのではないか。

感覚過敏と支援機器 の役割の例



タグのないシャツや
チクチクしない繊維等

視覚過敏



聴覚過敏



シーズ側参加者

- 株式会社ソフトデバイス 京都 吉岡氏
 - 認知症高齢者の方を対象とした電子カレンダー「y o t t e y」を開発。
 - 昨年の交流会でA S Dの方でも活用できるのではないか、との意見があり、本製品活用のため、A S D当事者の意見や困りごとについて伺いたく参加。



- コーデンシ株式会社 NeoBiz 南平氏
 - 光半導体のメーカー。介護施設や病院を対象とした離床センサの開発等を行っている。
 - 当社の技術を活かしたセンサーを見守り等に活用できないかと考えている。



シーズ側参加者

- 株式会社コムフレンド 佐藤氏

- 知的障害・発達障害の方が使用する支援機器を扱う老舗だが、この間、スウェーデン等でも生産中止の支援機器も出てきている。継続できる仕組みを模索している。海外製品の輸入や自社でタイマー等の開発等も行っている。



- 介護用品のうさぎ屋 橋本氏

- 2008年に虐待・拘束にあてはまらない介護用下着の開発に着手、商品化。
- この間ASDの関係者からの問い合わせがあり、意見を伺いたい。



ニーズ側とシーズ側とのやりとりの一部

- センシング技術を活かして、例えば、浴槽でのてんかん発作の検知はできないか。
 - 課題は認識しているが、ふろ場の環境で検知するために、センサーの閾値を下げるとフォルスアラーム（誤警報）が増え、対応しなくなってしまうこともある。
 -それでも命にかかわることであり、検討してほしい。
- 「触覚過敏」の課題の一つとして、下着など、繊維や縫い目が大きな課題となっているが . . .
 - 無縫製技術を使った肌着の製品化を検討している。

他にも、

- パーテーションの課題
- タイマーの課題
- パニックになる前の事前の検知ができないか。
- 等の課題とかかかわってのやり取りがあった。
- また、シーズ側からは、例えば、
- センシングだけでは解決難しいと痛感し、技術を伸ばす必要性を感じた。感覚鈍麻の話があったが、センシングという技術での対応も検討したい。また、本人が伝えたいことを先読みできるような技術も可能かもしれない。周りの環境の数値化に加えて、当事者本人へのアプローチができればと思う。
- 等の声を頂けた。

- ・・・パニックになる前の事前の検知ができないか。

自身が出す大きな声や音への対応



ある参加者からの発言より・・・

息子がパニックになった時、身体をさわると
冷たかったり、心臓がドキドキしている

体の発汗などでパニックになる予見ができるような
ものができたらいいなと思います。

個別の対応が必要ではあるが、様々な可能性を追
求できればと考える。

他のニーズの一部

- 聴覚過敏を対象としたイヤマフ使用に関わり、圧迫感やあせも、等。
 - 使用目的・聴覚過敏に対応し、人によってはなくてはならないからこそその切実な課題があり、解決方法が求められることが、より明らかになった。
- スマホやタブレットの使用により、障害の部分を支えることができるようになって、OSの更新などにより、アプリへの影響なども含め、都度都度への対応が難しい。
 - その対応は基本的に母親であり、社会参加の場である施設の支援はほとんどない。社会福祉現場の「IT」化等が言われるが、現場、関係者の障害とその支援の在り様に対しての理解や支援はまだまだ進んではいないと思われる。
 - この事に対しての公的な支援も今後重要ではないかと考える。
- ほかにも貴重な意見があったが、これらの課題に対しての具体的な支援の在り様、課題解決のための検討が進んでほしい。



- また、何らかの感覚過敏のある人も多い。
- ASDの方の状態像は非常に多様である。
しかし、共通した課題もちろんある。
- 基本的な障害の部分に対しての、人による支援はもちろん重要であるが、合わせて、
- その方に合った、その方の抱える課題を支えるための何らかの支援機器の使用や環境づくりと、周りの理解、支援により、
- その方の持つ力を発揮し、
- 自立や社会参加につなげていくことは可能だと考える。

最後に・・・ニーズ側の参加者の声

- 自分が参加していいのか不安になりながら参加した。話を聞いてもらえてうれしかった。
- 技術はあるところにはあると思っている。障害がある人にも、困ることがあっても支援機器があるからいいや、と思えるようになってほしい。
- ニーズ・シーズのような当事者と企業を繋げる取組みはありがたい。ASDの方の多くは、本人から発信することは難しく、保護者が発信しなければいけない点も障壁になっていると思う。
- 等、意義のある交流会となったと考える。

